

1 本校の実態(平成29年度の学力調査結果より)

教科に関して	生活面に関して
①全学年に共通する課題 国語・叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる力 ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して話す力 算数・考えを解釈し、式や言葉を使って数学的に説明する力 理科・日常生活に活用できる力としての知識・理解	①基本的な生活習慣が身についている子どもが多い。 ②家庭学習の時間は、各自工夫でき確保されている。 ③読書量は増えているが個人差が課題である。 ④自分の考えを話す、自分で計画を立てて活動することに苦手意識を持つ。

2 指導改善のポイント

教科に関して	生活面に関して
①授業力の向上 ②学習規律の確立 ③基礎・基本の定着・聞く力の育成 ④学習サポーターによる支援や家庭との協働	①基本的な生活習慣の定着 ②学習習慣の確立 ③豊かな心を育む教育活動の充実 ④基本的な生活習慣における地域・保護者との協働

3 本年度の具体的取組

*下線の項目は、学校経営重点目標と関連

(1)授業力の向上：自他の思いや考えを大切に伝え合うことのできる子どもの育成による主体的・対話的で深い学びのある授業
 『分からない』をプラスに作用させる全員参加の授業」「なるほど！・すばらしい！感動のある授業」

○一人一授業公開、互見授業の実施・・・考え合う数学的活動を活かした問題解決学習の工夫

○聞く力の育成・・・「聞く視点」の持たせ方の工夫により、相手の思いや考えを、自分の考えとのつながりを考えながらしっかり聞く力を育み、友だちの考えにつなげて自分の考えを伝えることができる子を育てる。

(2)学習規律の確立

○「城南小学習の約束」の定着、一人ひとりの活躍の場を設定し、満足感や次の活動の意欲につながる学級経営

(3)基礎・基本の定着及び活用力の育成

○はなまるタイムの充実・・・伝え合いの土台となる「対話力、説明力、算数的表現力、書く力」の育成

○低学力層の児童への補充支援の徹底(少人数指導・放課後学習教室)、まとめテストの実施

○各種学力調査の分析と苦手分野の重点的・系統的取組、家庭学習の内容と習慣化

(4)地域人材を活用した学習サポーターによる支援や家庭との協働

■平和集会語り部、キャリア教育、放課後学習教室の学習サポーター ■読み聞かせボランティアによる読書活動の充実

◆学習習慣確立のための保護者の学習確認(丸つけ・認め)

◆定期的な生活リズムチェック

学期	今年度の重点		評価・研修
	《授業力向上》	《学習の定着》	
1学期	○自他の思いや考えを大切に伝え合う授業 ～全員参加の授業・なるほど！のある授業～ ・「聞く視点」が持てる課題設定の工夫 ・「聞く視点」が持てる考えのかかせ方の工夫 ・説明・対話の場の設定と「聞く視点」を持たせる教師の出番 ○ 外部指導者を招いた校内研修 ○ 「つなげて発言する力」の分析・育成	○学習規律の徹底 ○はなまるタイムの充実 伝え合いの土台となる、対話力、説明力、算数的表現力、書く力の向上 ○少人数指導・個別指導 ・全体的な学力・低学力層の引き上げ ◆家庭学習習慣の確立 学年×10分+10分 ■放課後学習教室の実施 4・5・6年	○学力調査の実施 大分県学力定着状況調査(5年) 全国学力・学習状況調査(6年) ○学校評価の実施
夏季休業	○1学期授業づくりの成果と課題のまとめと、2学期の重点設定	○はなまるタイムの見直し 成果と課題を基に2学期の取組計画作成	○学校評価の分析 ○学力調査の分析
二学期	○授業のねらいを明確にもつ教材研究 ○つなげた発言による「全員参加・なるほど！のある授業」の充実 ○一人一授業公開 ○外部指導者を招いた校内研修 ○日頃の授業観察と管理職による指導・助言 ○基礎学力向上研究推進校公開研究発表会	○はなまるタイムの充実 苦手を克服する力を高めるスモールステップの取組 ○個別指導の充実 ◆家庭学習の充実 授業と家庭学習のつなぎ ■放課後学習サポーターの充実	○分析結果を生かした実践 ・各学年の単元指導の充実及び補充プリント実施 ○学校評価の実施
冬季休業	2学期の授業づくりの成果と課題のまとめと、3学期の重点設定	○低学力層児童への指導・支援	○学校評価の分析

三学期	○子ども自らがつなげて発言する「全員参加・なるほど!のある授業」の充実	○はなまるタイムの充実 ○個別指導の充実 ○まとめテストの実施	○大分市標準学力調査(4年) ○学力調査・学校評価の分析 ○年間まとめテスト実施・評価
-----	-------------------------------------	---------------------------------------	---